NUAL

名古屋大学全学同窓会
NAGOYA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

Newsletter

No.28 平成 29(2017)年 10 月

NUAL（ニューアル）は Nagoya University Alumni Association の略称です。

マレーシアのマラヤ大学で開催された益川敏英名古屋大学特別教授の講演会の参加者と共に（2017.7.31）
Dr. Toshihide Maskawa (Distinguished Professor of Nagoya University) with participants in his lecture at the University of Malaya, Malaysia (July 31, 2017)

Contents

特集1　名古屋大学同窓会サミットの開催 ・・・・・2
Summit Meeting of NUAL Associations

特集2　名古屋大学宇宙開発チーム NAFT の活動記録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
Report on the activities of the Nagoya University Aerospace and Flight Technologies (NAFT)

同窓会ニュース ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5,10
NUAL News

活躍する会員たち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
NUAL People in Action

事務局からのお知らせ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
From the NUAL Office

特集では、初開催の同窓会サミットの模様と、同窓会大学支援事業に採択された名古屋大学宇宙開発チーム NAFT の活動をご紹介します。同窓会ニュースでは、マレーシア支部・マラヤ大学主催の益川先生の講演会についてお伝えします。活躍する会員たちでは、日本パラリンピック委員会委員長の山脇さん、イグノーベル賞受賞の中垣さんにお話いただきました。

In our special feature we give you information on the first Summit Meeting of NUAL Associations, as well as the activities of the Nagoya University Aerospace and Flight Technologies (NAFT), which was selected as a NUAL Support Project. In NUAL News, we report on the lecture given by Dr. Toshihide Maskawa hosted by the Malaysia Branch and the University of Malaya. In Nual People in Action, we hear from Japanese Paralympic Committee President, Mr. Yasushi Yamawaki, and Ig Nobel Prize winner Dr. Toshiyuki Nakagaki.

特集1

名古屋大学同窓会サミットの開催
Summit Meeting of NUAL Associations

名古屋大学全学同窓会副会長
伊藤　義人

1. はじめに

平成29年6月3日（土）の16時から、野依記念学術交流館で、部局同窓会と全学同窓会による第1回名古屋大学同窓会サミットが開催されました。学部や研究科の同窓会だけでなく、独立して活動している学科や専攻の同窓会の会長および事務局長（幹事長）も参加しました。また、松尾総長、木村理事、磯谷理事･事務局長などの大学役員にもご出席いただき、総勢48名でした。

全学同窓会が15年前に設立された時から、部局同窓会と全学同窓会は、お互いに協力はするが、独立して運営し、分担金などは課さないことになっています。全学同窓会の幹事会と評議員会に、部局同窓会から委員を出してもらうなどの協力関係は、これまで良好に続いてきました。しかし、部局･学科･専攻同窓会の会長などの役員と全学同窓会の役員および大学役員との合同の交流はありませんでした。

最近の大学及び部局の財政困難な状況に対応して、従来の名古屋大学基金の中に、寄附金の8割を目的使用できる特定基金ができました。その中の1つとして困窮学生を支援し、税額控除が可能な修学寄附なども始まり、部局同窓会も部局および大学本部とも協力して活動しなければならない状況が発生しており、今回の名古屋大学同窓会サミットが企画されました。また、各部局同窓会や全学同窓会の活動状況の情報共有もこのサミットの目的の1つです。

2. 名古屋大学同窓会サミット

16時の定刻に、私の司会によって名古屋大学同窓会サミットは開会しました。用意した資料確認をし、その中の同窓会サミットの趣意書に簡単に触れました。

この後、岡田全学同窓会副会長から、このサミットの重要性に関する挨拶があり、また、松尾総長から、大学の現状の説明と同窓会への支援の要請がありました。特に、名古屋大学は「ハーバード大学など世界で競争できる大学」として文科省が特定する「指定国立大学法人制度」に応募中であるとの説明がありました。また、米国の有力な大学には、数兆円の寄附金からなる資金を持つ大学もあり、日本の大学が世界の中で競争するためにも是非とも同窓会の支援が必要であることが力説されました。

この後、参加者全員の自己紹介がありました。工学部・工学研究科のような大きな部局は、実質的な同窓会活動は学科・専攻同窓会が中心であり、11の部局同窓会だけでなく、12の学科・専攻同窓会の会長と事務局長（幹事長）も、このサミットに参加しました。自己紹介の中で、平成29年度からの部局再編と学科再編にともなう同窓会の再編についての課題を説明される方々もいました。

自己紹介の後で、全学同窓会の和田代表幹事から、全学同窓会の設立からこれまでの経緯と部局同窓会との関係について、スライドを使って説明がありました。

その後、私より、事前アンケートから見た部局同窓会と全学同窓会の現状と課題などについて、以下のような共通課題のまとめを説明しました。

1）若手の卒業生・修了生が同窓会に関心が薄く、また、同窓会役員のなり手が少ない。
2）会費徴収率の減少にともない財政が逼迫している。
3）部局再編によって関係同窓会のあり方が問われている。
4）個人情報保護法による同窓会名簿の扱いが難しい。
5）大学および部局と同窓会との関係のあり方を模索している。

この後、木村理事（財務担当）から、大学の現状と名古屋大学基金（特定基金を含む）について、スライドを使って詳しい説明がありました。

予定の1時間半が過ぎ、15分間の休憩後、お弁当と飲み物のビールやコーヒーを提供して、交流会が同じ部屋で行われました。

岡田副会長挨拶

松尾総長挨拶

交流会での乾杯

3. 交流会

交流会の開始にあたって最初に乾杯が行われました。

その後、松尾総長から、大学の状況の補足説明がありました。特に、指定国立大学法人制度の追加説明がありました。「文部科学大臣が世界最高水準の教育研究活動の展開が相当程度見込まれる国立大学法人を指定国立大学法人として指定することができる」制度であり、応募にはクリアすべき基準があり、旧帝の北大と九大は応募できず、かわりに東工大と一橋が応募している、すなわち、ハーバード大学のような大学と対等に戦える国立大学を指定して、規制緩和の下で、大学の発展を期すものである。また、今回のサミットが全学同窓会、部局同窓会および大学が緊密な連携の強化のスタートになるようにとの発言がありました。

この後、参加者により活発な発言と討議がありました。項目別に概要を以下に示します。

1）名古屋大学同窓会サミットのあり方

最初に、このサミットの今後のあり方に対する発言があり、種々の意見が出されました。特に、部局同窓会の財政状況や活動内容に関する情報共有の必要性に関する発言があり、幹事長などの実務者クラスの集まりや、ウェブでの情報交流をすることになりました。

2）大学との連携

松尾総長から、名大創立80周年、創基150周年および豊田講堂60周年記念事業を順次行うので、同窓会も一緒になって基金などへ協力いただきたいとの要請がありました。また、研究科長を中心に各部局も基金強化に動いてほしいということでした。

3）留学生の卒業・修了生

15の海外支部を持つ全学同窓会と終身会員制度などを持つ部局・学科・専攻同窓会などの留学生対応が話題となりました。海外にいる日本人卒業生・修了生による帰国後の留学生支援での活用についても議論がありました。

4）名簿の整備

いくつかの部局･学科同窓会は紙やCDの形で同窓会名簿を発行していますが、個人情報保護法との関係で多くの同窓会では、同窓会名簿を出すことが難しくなっています。全学同窓会が部局同窓会と協力して始めた卒業生等電子名簿は、現在、大学が管理しており、今後の活用についての議論がありました。

5）基金などへの寄附金

企業からの寄附金が少なくなり、個人からの寄附が増えている動向の説明があり、今後は企業にもメリットのあるやり方が必要であるという意見がありました。また、木村理事から名古屋大学基金におけるファンドレイザーの活用や今後の基金対応組織について説明がありました。部局同窓会からロータリークラブやライオンズクラブの会員などへの働きかけをしたらどうかという提案もありました。

4. おわりに

最終的に、名古屋大学同窓会サミットは有意義であること、来年度以降も年1回開催、また、各同窓会の実務担当者による情報交換会をウェブなども利用しながら実施することなどが確認されました。

最後に、岡田副会長の閉会の挨拶で、3時間に渡る名古屋大学同窓会サミットは終了しました。

特集2

名古屋大学宇宙開発チームNAFTの活動記録

Report on the activities of the Nagoya University Aerospace and Flight Technologies (NAFT)

平成28年度第1回全学同窓会大学支援事業に採択された、名古屋大学宇宙開発チームNAFTの活動をご紹介頂きました。

The Nagoya University Aerospace and Flight Technologies (NAFT), who were selected as the 2016 Round 1 NUAL Support Project, tell us about their activities.

名古屋大学宇宙開発チームNAFT　2016年度代表

手嶋　悠介

名古屋大学宇宙開発チームNAFTは「宇宙をより身近に」を団体の理念として掲げ、技術開発と宇宙教育活動を行っているサークルです。主に、ロケット、スペースバルーン、宇宙教育の3本柱で活動しています。

昨年11月に、伊豆大島でNAFT初のハイブリッドロケットの打ち上げを実施しました。そして、今年3月に二度目の打ち上げを実施し、高度約700mを記録しました。今後、さらなる高度到達を目指しています。また、昨年6月には、スペースバルーンと呼ばれる、主に気象観測に使用されている特殊なゴム風船を用いて、成層圏（高度約30km）での360°映像の撮影に成功しました。さらに、映像をVR（ヴァーチャルリアリティ）に編集しました。特殊なゴーグルを用いて映像を見ると、手の動きに合わせて眼下に広がる地球が動きます。まるで宇宙を歩いているかのような体験が可能となりました。

また、VR映像を教育活動に活用しました。

昨年10月に名古屋市内で開催された名古屋まつりや今年2月に京都大学で開催された300～400人の来場者を誇る宇宙ユニットシンポジウムなど、数多くのイベントで、幅広い年齢層の方にVR体験をしていただきました。また、千種高校で実施した出張宇宙講義では、アンケート調査をしたところ、多くの生徒がVR体験をする前よりも航空宇宙分野に興味を持ったという結果を得ました。視覚的に宇宙を感じた上で詳しく学ぶことで、宇宙をより身近なものにすることが可能だと感じました。

成層圏から見る地球

この度、平成28年度第1回名古屋大学全学同窓会支援事業としてご支援を頂いたため、VRを活用した宇宙教育活動のアプローチが可能となりました。これからも団員一丸となって宇宙の魅力を名古屋大学から発信し、航空宇宙産業の発展に繋げていきたいと思っております。今後とも応援していただけたら幸いです。

本支援金に基づいて行われた活動の成果については、今年6月に松山で開催された一般社団法人日本航空宇宙学会主催国際会議 The 31st International Symposium on Space Technology and Science（31st ISTS）の宇宙教育セッションにおいて発表いたしました。

発射台に設置したロケット

VR映像を体験する高校生

同窓会ニュース　NUAL News

全学同窓会マレーシア支部・マラヤ大学主催　益川敏英特別教授講演会

全学同窓会代表幹事
和田　壽弘

7月31日（月）にマレーシア･クアラルンプールにあるマラヤ大学にて益川敏英名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長・特別教授の講演会が開催されました。参加者は約1,500名でした。昨年10月に全学同窓会マレーシア支部から松尾清一総長に、ノーベル賞受賞者の講演会をマラヤ大学で催したいという意向が伝えられ、総長は講師に益川先生を推薦されました。講演会はマレーシア支部とマラヤ大学の共催で、全学同窓会と名古屋大学が後援することとなりました。

7月29日（土）に名古屋大学関係者は2班に分かれてクアラルンプールに到着しました。関西国際空港から益川先生ご夫妻と上野山多恵教育推進部事業推進課長、中部国際空港からは松尾総長、和田、中野富夫全学同窓会連携委員長、辻篤子国際機構国際連携企画センター特任教授、小野幸嗣教育推進部長です。講演会の現地対談者を補佐して下さる杉山直理学研究科長は、翌日夜に現地入りしました。30日(日)午前11時より講演会場であるマラヤ大学総長殿下記念講堂で、打ち合わせとリハーサルを行いました。午後8時からマレーシア支部による歓迎会が開かれ、現地の同窓生21名が駆けつけてくれました。旧交をあたためるよい機会となりました。

講演会は、31日(月)10時に、開催に尽力下さったマラヤ大学ジャミラ・モハマド上級講師の英語と日本語とによる司会で始まりました。両国国歌の斉唱があり、次にマラヤ大学アワン・ブルギバ・アワン・マームド学長代理により、マレーシアの研究者および学生たちへのノーベル賞につながるような研究への励ましとしたいという趣旨説明がなされました。松尾総長は、名古屋の地理上および産業上の特徴を踏まえて名古屋大学の紹介をされました。そして豊田章一郎全学同窓会会長からの祝辞が代読され、マレーシア支部長のナファリザル・ナヤン氏に手渡されました。

講演会では対談者のマラヤ大学ハリス・アーマッド特別教授が益川先生に質問をし、杉山研究科長には、興味ある答えを先生から引き出す労を執っていただきました。楽しいやり取りの中にも人工知能やノーベル賞についての本質的な話もありました。会場からの質問も出ました。今回、在マレーシア日本大使館の方々も駆けつけて下さいました。

講演会後はマラヤ大学理学部を訪問し、共同研究の可能性などについて話し合いを行い、その後場所を変えて、特別日本語準備プログラムの説明を受けて授業の見学もしました。慌ただしい中、夕刻には空港に向かい全員が機上の人となりました。

マレーシア支部による歓迎懇親会

益川先生の講演

活躍する会員たち　NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第28回は、経済学部を卒業され日本パラリンピック委員会委員長としてご活躍の山脇康さん、大学院人間情報学研究科で博士の学位を取得され粘菌の研究でご活躍の中垣俊之さんにお話しいただきました。

In NUAL People in Action, we introduce the activities of Alumni members around the world. In this 28th edition, we hear from Mr. Yasushi Yamawaki, President of the Japanese Paralympic Committee and a graduate of the School of Economics, as well as Dr. Toshiyuki Nakagaki, who completed his doctorate at the Graduate School of Human Informatics and conducts research on slime mold.

山脇（やまわき）　康（やすし）さん

■略歴

1948年 1月　愛知県半田市生まれ
1970年 3月　名古屋大学経済学部卒業
1970年 4月　日本郵船株式会社入社
1997年 6月　同社　ガスグループ長
2000年 4月　同社　取締役
2006年 4月　同社　代表取締役副社長
2008年 4月　同社　代表取締役副会長
2011年 6月　同社　特別顧問
2016年 2月　同社　アドバイザー

2011年12月　公益財団法人日本障がい者スポーツ協会　理事
2012年 6月　日本パラリンピック委員会　副委員長
2013年11月　国際パラリンピック委員会　理事
2014年 4月　公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会　副会長
2014年 8月　日本パラリンピック委員会　委員長
2015年 5月　公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンター　会長
2015年11月　スポーツ庁　スポーツ審議会　会長

東京2020パラリンピック大会開催に向けて〈パラリンピックを通じて創る未来社会〉

『パラリンピックとの関わり』

1970年に名古屋大学経済学部を卒業後、日本郵船に入社し以降45年を超える会社生活の約半分をエネルギー資源輸送、特に数多くのLNG（液化天然ガス）輸送プロジェクトに関わってきましたが、役員退任後の2011年末から、日本障がい者スポーツ協会・日本パラリンピック委員会でのボランティア活動を始めました。

2012年夏のロンドンで観た初めてのパラリンピック大会は、障がい（disability）のある選手が頑張っている大会ではなく、人間の能力（ability）と可能性を示す驚くべきスポーツ大会であることを知りました。参加したアスリートは、残された機能を限界まで追求し、挑戦することの素晴らしさや、勇気（courage）、強い意志（determination）、インスピレーション（inspiration）、公平（equality）というパラリンピック特有の価値を、教えてくれました。ロンドン大会での体験は、会社生活では経験したことのないようなインパクトを持つ出来事でした。

現在では、東京2020パラリンピック大会の成功とパラリンピックムーブメントの発展のため、4つのパラリンピックに関係する組織で、日々の活動をしています。できる限り多くの方々にパラリンピックの魅力やアスリートの素晴らしさを伝え、自分に身近なこととして関わっていただき、そして東京パラリンピック大会を通じて、活力ある未来社会の実現に繋がるように少しでもお役に立てればと思います。

『パラリンピックとは』

パラリンピックの原点は、第2次大戦後にロンドン郊外のストーク・マンデビル病院にて、戦争で障害を負った軍人のリハビリの補助的方法としてス

2016年　リオパラリンピック大会選手村にて

1964年　東京パラリンピック大会ポスター

ポーツが紹介された事にはじまります。1948年のロンドンオリンピック大会の開会式の日に、病院内で開いたスポーツ大会がパラリンピックの始まりと言われており、この点もオリンピックの生い立ちとは異なります。

1964年11月に東京パラリンピック大会が開催されていたことをご存知でしょうか？　1964年東京オリンピック大会の開催が決定された後に、大分の中村博士他関係者の熱意により、急遽、東京で統合された障がい者スポーツ大会(後に第2回パラリンピック大会）が開催されました。2020年に東京オリンピック・パラリンピック大会の開催が決定され、東京は同一都市で2度目のパラリンピック大会を開催する初めての都市となり、1964年東京パラリンピック大会の歴史が、改めて注目されています。

パラリンピックは、現在では、オリンピックとは異なる独自の価値を持った競技性の高いスポーツイベントに発展し、観客数においてオリンピック大会、FIFA ワールドカップに次ぐ世界で3番目に大きなスポーツイベントに成長しています。東京パラリンピック大会では、約4500名のアスリートによる、22競技、約530種目の実施が予定され、各競技会場で、満員の大観衆の声援を受け、アスリートが躍動する史上最高の大会にすることを目指しています。

『パラリンピックを通じて創る未来社会』

パラリンピックの理念は、スポーツを通じて、インクルーシブな社会〈多様性を認め、誰もが個性や能力を発揮し活躍できる公正な機会が与えられている社会〉を実現することにあります。理念の原動力であるアスリートのポジティブな生き方、何ができないかではなく、何ができるかを常に考え、その可能性を追い求める姿が、障がい者に対する意識の変革（心のバリアフリー）や、障害そのものに対する社会認識の変化に繋がることになります。パラリンピック競技を観戦し、アスリートと接することにより、障害は、障がい者にあるのではなく、障害に対する人々の意識と、社会の環境により作られていることに気づきます。

このような人々の意識の変革こそが、分け隔てのない、違いと多様な個性を包容するインクルーシブな社会への構築に最も必要な要素です。2020年に人口の約30％が65歳以上となる日本には、お互いが認め合い、相手の立場に立って行動し助け合う共生社会の構築が必要であり、東京パラリンピック大会の成功は、こんな未来社会への第一歩となる、と確信しています。

パラリンピックには社会を変える力があり、パラリンピックは社会と繋がる機会でもあります。できる限り多くの方々が、パラリンピックのファンになって応援する、競技を観戦する、ボランティアとして参加する、アスリートの雇用機会を拡大する、パラスポーツ関係者・団体を支援する、教育プログラムやレガシープログラムの実施に参画すること等を通じパラリンピックに関わることが、日本全体で多様性のあるインクルーシブな社会や職場環境を実現してゆくことに繋がり、また社会や企業の活力を引きだし、イノベーションを創出する環境を創ることにもなります。東京パラリンピック大会を史上最高の大会として成功させ、活力ある日本の未来社会の実現に繋げたいと願ってやみません。

なかがき　としゆき
中垣　俊之さん

■略歴
北海道大学　電子科学研究所　所長
電子科学研究所附属社会創造数学センター教授

1982年　豊田西高校卒業、北海道大学入学
1989年　北海道大学薬学研究科修士課程修了、ファイザー製薬（株）入社
1995年　愛知県立旭陵高等学校（通信制）非常勤講師
1997年　名古屋大学大学院人間情報学研究科博士課程修了（学術博士）、理化学研究所入所（基礎科学特別研究員）
2000年　北海道大学電子科学研究所助教授
2004年　在外研究員オックスフォード大学数学研究所、ユタ大学数学科
2010年　公立はこだて未来大学教授、大阪大学客員教授、北海道大学客員教授
2013年　北海道大学電子科学研究所教授

人情第四号

ちょうど30歳を過ぎた頃だった。5年ほど勤めた製薬会社を辞めて、もう一度勉強し直してみようと思いたち、名古屋大学の新しい大学院であった人間情報学研究科の博士課程に入学した。1994年4月のこと、第1期生であった。製薬会社では薬の探索研究に従事していたが、物理や数学の考え方を利用して生命現象を理解していく必要性と将来性を感じてのことであった。もとより、単純な興味本位で、自分の関心事を掘り下げてみたいと思ってのことでもあった。

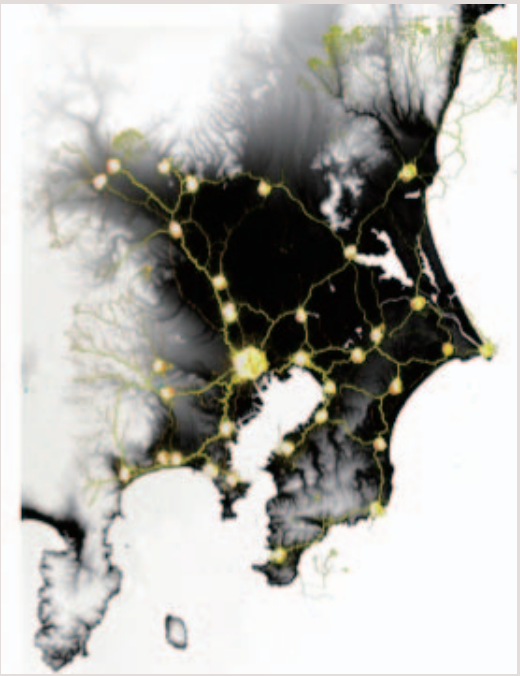
興味本意と言ってもぼんやりとしていて、「ファーブル昆虫記」の世界を数物科学の言葉でもって読み解いてみたいと思っていた。と今にして思えばそう言えそうな気がする。そんな思いを抱きながら、通信制の愛知県立旭陵高等学校（旭丘高校の敷地内に併設）の非常勤講師をしながら（通信制高校の多様な学生さんとの交流で元気づけられて）学位をとった。その後、名古屋市守山区下志段味にできたばかりの理化学研究所バイオミメティックコントロール研究センター制御系理論研究チームというところに入れてもらった。名大工学部を退官された伊藤正美先生が所長を勤めておられた。

ここで3年間、単年度契約の博士研究員をつとめた。博士課程の時、恩師の上田哲男先生と共に「粘菌という生物の賢さの研究」をしていたので、とりあえずその賢さがどれほどかを実験で評価して、その賢さがどのような情報処理によって実現されるのかに取り組むことにした。

ここでの研究成果は、単細胞の粘菌に迷路を解く能力があること、その計算方法をアルゴリズムとして定式化できたことなどであった。迷路の実験はわかりやすさも手伝って世間の耳目を集めたが、アルゴリズムの方は粘菌の運動を方程式で書き下してから改めて逐次改善型アルゴリズムとして抽出したものであったので、何のことやらということで省略されることが多かった。ここは頑張りどころだと思い、なるべく多くの人々と研究成果を分かち合うべく、可能な限り説明して回るようにした。

その甲斐あってか、発表から8年後にイグノーベル賞認知科学賞なるものをいただいた。「人々を笑わせしかるのちに考えさせる研究」に与えるという賞である。賞金は0円だったが、むしろお金も権威もないという徹底ぶりが清々しかった。大学の知をどのように市民と分かち合うかを考える時、イグノーベル賞には学ぶべきことが多いと思われる。余談であるが、この時、名大総長（平野先生）からわざわざ祝電をいただいて、いたく感激した。

2010年にはイグノーベル賞交通計画賞を再び頂戴し、NHK「爆笑問題の日本の教養」主催の「第1回爆ノーベル賞」なるものもいただいた。お笑い系ノーベル賞を三つもいただいたことが私の誇りである。学問の深みは底知れずに面白い。人間観、社会観、世



粘菌の設計する関東圏の交通網。はたして粘菌と人間は似ているのか？

イグノーベル賞のインフォーマルセミナーの質疑応答。受賞セレモニーは、ハーバード大学のサンダースシアターで行われ、数名の「本物」のノーベル賞受賞者とともに余興をくりひろげる。その後、マサチューセッツ工科大学にてインフォーマルセミナー（こちらはセレモニーとちがって無料）が開催され、大勢の学生が押し寄せて、活発な質疑応答を楽しむ。

界観、生命観、自然観が、自分の中で変わっていく。このような時、いわば無知の知と目から鱗が落ちる想いとが背中合わせで到来する時、なぜか心が満ち足りるのを覚える。「ああ生きていてよかった」と。学問のもつこの底力を過小評価してはならない。

今、私は北海道大学電子科学研究所附属社会創造数学研究センターにて文理融合を念頭に「物理エソロジー」という学問を構想している。エソロジーとは動物（生物）行動学のことである。今年から所長を仰せつかり、管理運営に注力するようになった。当研究所のような附置研究所は、教育部局ではないので、また別の存在意義を示さなければならない。名大にも幾つかの研究所・センターがあり、研究所・センターの全国組織を通じて交流し共に活動している。

私は、愛知県豊田市の出身で、名古屋大学は地元の大学であった。遠くへ行きたいと思ったので、高卒後に愛知を離れたが、就職では愛知県の製薬会社に戻ってきた。図らずも名古屋大学の博士課程を修了し、最終学歴の母校となった。30歳を過ぎてからであったが、名大での博士課程の3年間と理研名古屋での博士研究員の3年間は、私にとって研究人生の土台を固めた時期であった。名古屋大学を再訪するたびに、その頃の自分を思い出し、気持ちを新たにするのであった。名古屋大学は私にとって「初志」と「故郷」である。

大学院人間情報学研究科は、その後の改組でなくなってしまったが、その文理融合的な学問魂はその後の組織に受け継がれていることだろう。私の学位記は、「人情第四号」である。人情という略し方がお気に入りである。人情、モラル、浪花節、これらは人生も大学も面白くしてくれる大事な要素だと私は思う。北海道大学の前身である札幌農学校のクラーク博士（副校長）は、詳細な校則を廃してただ一言、「紳士たれ」と学生に教えたそうである。私の解釈では、「お天道様が見ている」である。お天道様、ちゃんと見ていて下さいね。と、思った瞬間、お天道様とは自分のことかと合点した。人情第四号、名前に大きく負け越していると思われるが、死ぬまでにはもう少し挽回しておきたいと願っている。

同窓会ニュース　NUAL News

大学支援事業目録贈呈

平成29年4月13日（木）、平成29年度第1回幹事会において、全学同窓会大学支援事業（平成28年度第2回）採択者に目録が贈呈されました。全国七大学総合体育大会の公式マスコットの『ナゴ助』も参加し、和やかなうちに行われました。

今回は、応募総数11件の中から、表の5件が採択されました。事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会HPでも公開されます。また、これまでに採択した事業を全学同窓会HPで公開しています。

平成28年度第2回　採択事業

所属・職名等	申請者	事業名
工学部　電気電子情報工学科・2年	隈部　岳瑠	サイエンスコミュニケーション団体・名古屋大学科学部
工学部　機械・航空学科・3年（NUFSA（名古屋大学留学生会）会長）	Lee Vincent Cherng Hsi	NUFSA留学生の家族のための日本語・日本事情コース　ベビーシッターボランティア継続プロジェクト
未来社会創造機構・機構長	財満　鎮明	チュラロンコン大学－名古屋大学学術交流協定締結25周年記念シンポジウムの開催
大学院法学研究科・研究科長（教授）	石井　三記	レ・タイン・ロン　ベトナム司法大臣と法学部同窓会の交流会
第56回全国七大学総合体育大会実行委員会 名古屋大学体育会（法学部3年）	桑山　晃久	第56回全国七大学総合体育大会

採択された事業代表者の方々

支部・部局便り　News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部　NUAL Kanto Branch

関東支部は、東京神田の「学士会館」地下の名古屋大学東京連絡事務所で、各部局同窓生幹事による幹事会を開催し、全学同窓会のミッションに沿い、努力しております。

2017年度活動計画

1. 本部との連携行事強化
   名古屋大学で学士会と共催講演会（第4回）
   12月5日　名古屋大・坂田平田ホール
   講師　伊丹健一郎
   トランスフォーマティブ生命分子研究所拠点長
   「チカラある分子をつくる」
2. 関東支部部局との連携強化―幹事会
3. 学士会との連携強化
4. プロジェクトチーム（実行委員会）支部活動を支援。

■関東支部は、丹羽宇一郎支部長のもとに活動しておりますが、事務局は、10月のホームカミングデイ以降、若返りと継承をはかるため、下記の体制に移行しますので、よろしくお願いします。

関東支部

事務局長　岸　徹
kishi8678tr@ra2.so-net.ne.jp

事務局次長　石川　靖文
y_ishikawasan@yahoo.co.jp

会計担当幹事　佐久間紀雄
n-sakuma@hotmail.co.jp

（文責：片岡　大造）

名古屋大学遠州会 NUAL Ensyu Branch

全学同窓会遠州会支部第22回同窓会を開催

名古屋大学遠州会同窓会は第22回同窓会を平成29年6月10日（土）夕刻より浜松市内のホテルにて、来賓としてモンゴル出張から帰国まもない松尾清一総長と全学同窓会の伊藤義人副会長、和田壽弘代表幹事のお3方をお迎えし、会員70名が出席して開催しました。開催に当たり豊田章一郎全学同窓会会長より祝電を頂きました。

最初に出席者の集合写真を撮り、その後南方会長の挨拶のあと、松尾総長から松尾イニシアティブ「NU MIRAI 2020」に於ける教育・研究・国際化・産学連携、組織改革などの各テーマの進行状況、さらに大学を取り巻く環境について、ご自身で作成された資料を配布されて詳しくお話をされました。和田先生からは自己紹介、全学同窓会の活動全般と財政上の課題についてお話があり、伊藤先生は同窓会サミット、大学と学生への支援基金制度についてお話をされました。

その後大久保遠州会名誉会長の乾杯発声で懇親会を始め、浜松医科大学の管弦楽団4名の学生さんによる演奏で和やかな雰囲気で進行しました。1年ぶりの再会もそこかしこにあり、老若男女が楽しい時間を過ごし長嶋副会長による中締めで20時30分に終了しました。

この同窓会の様子は後日の地元紙2紙に写真付きで掲載されました。

■連絡先　名大遠州会同窓会事務局長　原田憲道
E-mail　enshuhrd@yahoo.co.jp

出席者集合写真（S49以降卒）

関西支部 NUAL Kansai Branch

全学同窓会関西支部第12回総会開催

平成29年5月20日（土）14：00から、名古屋大学全学同窓会関西支部第12回総会が、大阪市内の中央電気倶楽部において開催され、会員60名が出席しました。

総会では、関電プラント（株）相談役 藤井 眞澄 全学同窓会関西支部長の開会挨拶で始まり、その後、三菱重工業（株）執行役員フェロー 防衛・宇宙セグメント技師長 二村幸基氏の講演会が行われました。

二村氏の講演では、日本のロケット打ち上げシステム開発や国際宇宙ステーションの日本実験モジュール（きぼう）など、ユーモアを交えながら、大変わかりやすくお話し頂きました。担当されたH-Iロケット、H-IIロケットなど現在のロケットに至るまでの開発秘話、ロケット発射時の緊張感など、会員にとって日常とはかけ離れた新鮮な刺激にあふれ、大変好評を博すことができました。

休憩をはさんだ後、松尾総長から、「名古屋大学のMIRAI」と題し、大学の情勢や今後の目標について報告がありました。引き続き、昨年新代表幹事として就任した和田壽弘全学同窓会代表幹事から、全学同窓会の昨年度の活動、今年度の事業計画等について報告がありました。

また、今回の総会では、新たに名大オリジナルグッズとして商品化されたノリタケ製カップの販売を行いました。名古屋大学の建物が描かれたマグカップやカップ＆ソーサーには関心を持たれた方も多く、約15名の会員が購入されました。

総会・講演会後の懇親会には、43名が参加されました。脇田喜智夫事務局長の進行により、部局支部同窓会の代表者から近況報告があり、大変和やかなうちに終了しました。

■連絡先　関西支部事務局長　脇田喜智夫
御所南法律事務所　TEL 075-253-0777
E-mail　office@goshominami.jp

二村幸基氏

同窓会支援事業　NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄付講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

"Public Outreach Project for fostering Intercultural Coexistence in Nagoya (POPIC) ~University for the people, with the people~"
「真の多文化共生を目指すパブリック・アウトリーチ・プロジェクト in 名古屋（POPIC）～地域のために、地域と共に～」

申請代表者：伊東早苗
（国際開発研究科　研究科長　教授）

本調査プロジェクトは、外国人支援現場の声をもとに発足しました。本調査プロジェクトの特徴は、国際開発研究科卒業生を含め、様々な地域の専門家と協働で実施したことです。そして、プロジェクトを実施する上で、名古屋大学全学同窓会から多大なご支援をいただきました。プロジェクト・コーディネーターを雇用し、また講演会を開催し講師の方を招くことができました。さらに、多言語のアンケート調査を実施することができ、その結果を報告書として、日本語と英語の二つの言語で作成することができました。1年間の調査プロジェクトを通して、日本人学生及び留学生が多文化共生社会の現状を知ることが出来ました。また、現状理解のみに留まらず、社会に貢献する機会を得られました。最終的に調査結果をまとめた報告書を発行し、NGO や国際交流協会にフィードバックすることにより、外国人支援現場に貢献できればと考えております。

全体ミーティング
（多言語媒体の整理）

名古屋市内のブラジル人集住地での
アンケート調査

「名古屋大学メモリー」創基から新制名古屋大学へと至る歴史資料解説図録の発行と、インターネットによる公開

申請代表者：蒲生英博
（附属図書館医学部分館　特任専門員）

名古屋大学医学部史料室（附属図書館医学部分館4階）には、明治4年（1871年）の名古屋大学創基から、昭和24年（1949年）に名古屋帝国大学が新制名古屋大学として再出発するまでの、本学の歴史資料（図書、文書、写真、絵画、絵葉書、医療器具等）が多数所蔵されている。

「名古屋大学メモリー」（申請時のメモリから、一般的な表記であるメモリーに変更した）は、これらの歴史資料の図版に解説を付けて、解説図録としてまとめたもので、平成27年度第2回名古屋大学全学同窓会大学支援事業の助成を受けて発行するものである。また、名古屋大学学術機関リポジトリと、「近代医学の黎明デジタルアーカイブ」サイトにより全文を公開したことで、名古屋大学が全国に誇るべき歴史資料を誰もが共有でき、大学と同窓生とのつながりをさらに強める媒体となり、加えて、若い世代が名古屋大学をはじめとする高等教育を目指す契機となり、生涯学習にも貢献することが期待できる。

なお、「名古屋大学メモリー」の冊子は、学内、関連する中央省庁、国立大学及び医学系大学、国立国会図書館及び東海四県の公立図書館、歴史学及び医学に関連する教育・研究機関、報道機関等に寄贈した。

名古屋大学メモリー表紙

本文

学習支援団体*学ぼまい

申請代表者：菊地原守
（教育学部人間発達科学科3年）

学習支援団体*学ぼまいは中学生への学習支援を主な事業とし、そのほか学内での講演会も行ってきた。学習支援事業では中学生を本学に招き、学生が教師役となって毎週月曜・木曜に数学と英語の授業を行った。授業の担当の学生は指導草案を書き、単なる知識の教授となるのではなく、生徒が自発的学習意欲を高めることを目的として授業を実施した。また、授業をしなかった学生は観察者として授業研究に参加し、授業について客観的に意見を述べた。本事業を通じて、まず生徒の自発的な学習意欲の高まりが見られたとともに、本学の学生をロールモデルとして位置付け、精神的に成長している様子がうかがわれた。学生の成長としては、教職課程の中では獲得しづらかった授業の実践的なスキルが身についていき、また、観察者として授業研究に参加することで、授業という枠組みを客観的に捉える力が養われた。さらに講義で学習した理論的側面と、実際に観察する実践的側面を統合していくような発言が多々見られるように変化していった。対外的にはSNSで活動の報告を行ったほか、入学式での新入生を募集する様子がNHKに取り上げられ、名古屋大学でのユニークなサークルとして紹介された。

講演会事業については、多様な形で教育に携わる社会人の方を講師としてお招きし、図書館を利用して講演会を実施した。参加者は広く募集し、高校生を中心とした学外者も参加し、全員から良い評価を頂くことができた。

これらの事業の準備費用として全学同窓会からご支援を頂いた。一年間の活動を通じて事業の基盤を作ることができたので、今後はさらに躍進していきたいと思う。

授業の様子

公開シンポジウム「教師教育における総合研究大学の役割」の成果の卒業生への普及と還元に関する事業

申請代表者：久野弘幸
（大学院教育発達科学研究科　准教授）

本事業は、全学同窓会の支援を受け、教育発達科学研究科の事業として行われた公開シンポジウム「教師教育における総合研究大学の役割」の発表並びに議論の内容を整理し、その成果を主に高等学校に就職した卒業生に普及・還元することを目的に実施されたものである。

本事業においては、第1部におけるE. Wilson氏による基調講演「教師教育の政策と実践における学術研究の役割：ケンブリッジ大学の事例から」で使用されたスライド、配布資料、講演記録を整理するとともに、第2部・事例発表「先導的な教育実践の取り組みとそれを支える教師の専門性」ならびにパネル討論「研究大学としての教師教育」における発表記録および議論の記録を整理した。

本事業により、出身学部を問わず教職に就く本学同窓生が、研究大学の出身という自己の特性の価値に気付き、それぞれの組織内での自己の役割をいっそう高めるための支援を行うことができた。本事業の実施にあたり全学同窓会より厚い支援を受けた。記して謝意を表明します。

基調講演を行うウィルソン氏（第1部）

事例発表を踏まえたパネル討論（第2部）

中高生、一般の方々に広く本学を知ってもらう大学見学

申請代表者：大久保淳
（総務部　広報渉外課　課長補佐）

高校生、保護者の皆様に本学の雰囲気を理解していただく機会として、名古屋大学（東山キャンパス）では、大学見学を実施しております。また、中学生の分散学習の訪問についても受け入れをしております。見学内容は、まず参加者に大学の概要冊子を配付し、その内容説明、次に説明に基づく概要 DVD 視聴と公開している各施設の展示内容について説明しております。入試関係の説明については、教育基盤連携本部アドミッション部門の先生方のご協力もいただいており、参加される高等学校から大変喜ばれております。

参加学校は、名古屋市を中心に東海三県はもとより、関西、北陸、山陰方面まで幅広く受け入れており、参加人数は、学校単位で1校30名から300名くらいです。年間参加人数は5,000名余りとなります。大学見学は、名古屋大学を目指す高等学校等の学生らに、名古屋大学の教育及び研究活動、公開施設等を知らせる場として活動しており、名古屋大学へ興味を持ってもらい、大学や社会に貢献できる優秀な人材が集まる大学になるよう紹介しております。

このたび同窓会支援事業の支援により、大学独自のグッズを作成することができました。大学見学に参加される学生や保護者の方々には、名古屋大学全学同窓会の支援で作成したことを伝え、配布しております。大学グッズを受け取ったみなさんからは大変喜ばれ、同窓会支援事業に今回採択されたことは、大変ありがたかったです。

大学は知を創造し、次世代へ伝承する場です。名古屋大学が地域に愛され、社会に開かれた大学として、今後もアピールできるよう頑張っていきます。

大学見学にて高校生らに
記念品を配付

作成した記念品

「名古屋大学全学同窓会台湾支部設立5周年記念　台湾 朱振南 書画の世界 ー書による日台文化交流と後藤新平の再評価ー」における関連イベント

申請代表者：野崎ますみ
（名古屋大学博物館　研究員（学芸員））

2016年10月15日のホームカミングデイにおいて、全学同窓会の支援を受け、書画実演「書による日台文化交流」を開催した。台湾書家の朱振南と日本書家の安達柏亭・足立雲峰による書画の実演を行う内容であったが、観客は漢字文化に関する日台の共通点・相違点を身近に感じることができた。さらに、三人の作家が、協力して制作した屏風用の書画は、友好の証として観客の心を打った。また、名古屋大学が開かれた大学として、日台交流の一端を担うことについて、同窓生や一般市民が理解を深めた。台湾支部長･簡玉聰（高雄大学教授）の話『非常に良い企画で感動した。ホームカミングデイに来て良かった。』からも、台湾支部設立5周年記念行事として成果を収めたと信じる。なお、当日の博物館への入館者数は1,159名を数えた。

足立雲峰の制作過程と観客

作品の最後に手を加える朱振南

■同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。
詳細は、全学同窓会ホームページ http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/ をご覧下さい。

○関東支部

1）東京キタン会秋の催事

東京湾ランチクルーズと落語
日　時：平成29年11月11日（土）　11:30～14:00
集合場所：竹芝桟橋　ヴァンテンクルーズ待合所
内　容：レストランシップヴァンテンでのフランス料理を楽しみながらの落語鑑賞
予定人員：50名
詳細について：東京キタン会事務局森本重彦まで連絡下さい。
携　帯　070-2825-6407
メール　mrmsgh00@ae.em-net.ne.jp

2）平成29年度鏡ヶ池会（土木系教室同窓会）東京支部総会

日　時：平成29年11月17日（金）　18:30～20:30
場　所：主婦会館プラザエフ 地下2階 クラルテ
http://www.plaza-f.or.jp
連絡先：幹事　鹿島建設株式会社
その他：土木系教員数名が来賓として出席予定
支部長：鹿島建設株式会社　横浜支店土木部　中島清
〒231-0011　横浜市中区太田町4丁目51番地
TEL 045-641-8848
E-mail：nakajiki@kajima.com

3）第20回名古屋大学農学部同窓会関東支部総会
～支部創立40周年記念～

日　時：平成29年12月2日（土）　13:10～17:10
場　所：學士會館　203号室
東京都千代田区神田錦町三丁目28番
主　催：農学部同窓会関東支部
参加費：6,000円（同伴者：大人4,000円、子供無料）
連絡先：E-mail：alum-kan@agr.nagoya-u.ac.jp
その他：他学部卒業生の方も参加歓迎
＊詳細は、農学部同窓会関東支部ページ
（http://www.nua-alumkanto.net/）よりご確認ください。

○名大遠州会

名大遠州会第23回同窓会・第12回総会

日　時：平成30年6月2日（土）　18:00～
場　所：オークラアクトシティホテル浜松
連絡先：名大遠州会同窓会事務局長　原田憲道
E-mail：enshuhrd@yahoo.co.jp

○関西支部

1）2017年東山会関西支部総会

詳細は、東山会関西支部 HP
（http://www.higashiyamakai.com/）にてご確認ください。
日　時：2017年11月11日（土）　15:30～17:00
場　所：大阪コロナホテル
大阪市東淀川区西淡路1丁目3番21号
（1）総会、講演会
1. 総会　支部長ご挨拶
東山会会長ご挨拶
会計報告、監査報告、各種部会報告　その他
2. 講演会
講演者：長野方星（名古屋大学大学院工学研究科機械システム工学専攻）
題　目：未定
（2）懇親会　17:00～19:00
参加対象者：関西在住会員
連絡先：関西支部庶務幹事　小川耕司

第18回イブニングサロン（日本機械学会東海支部との共催）

日　時：平成29年12月14日（木）　18:00～20:00
場　所：名古屋大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
3階ベンチャーホール
講　師：（1）富田　茂（キャリオ技研株式会社 代表取締役）
（2）日本機械学会東海支部の講演者は未定

平成30年（第15回）東山会新年同窓会

日　時：平成30年1月27日（土）　11:00～14:30
11:00～11:20　平成29年東山会総会
11:20～11:30　大学近況紹介
11:30～12:30　特別講演会
12:30～12:40　写真撮影
12:50～14:30　新年同窓会（懇親会）
場　所：名鉄ニューグランドホテル 7階『扇の間』『椿の間』
名古屋市中村区椿町6番9号　TEL 052-452-5511（代）
http://www.meitetsu-ngh.jp/access.html

2）平成29年度関西セコイア会総会・講演会・懇親会

日　時：平成29年11月11日（土）　10:00～15:00
講演者：香川大学名誉教授　早川茂先生
場　所：大阪中央電気倶楽部
連絡先：寺前朋浩
〒669-1103　西宮市生瀬東町37-23
rikamoto@ares.eonet.ne.jp

3）平成29年度鏡ヶ池会（土木系教室同窓会）関西支部銀シャチ会

日　時：平成29年11月17日（金）　18:30～21:00
場　所：がんこ阪急東通り店　ニュー大東洋ビル2階
http://www.gankofood.co.jp/shop/detail/wa-hankyuhigashidori/
参加対象：60才以上の会員
会　費：2,000円
連絡先：支部長　浜嶋鉱一郎（携帯電話：090-5137-3548）
E-mail：hama-ko1ro@docomo.ne.jp

全学同窓会・学士会主催　講演会・夕食会

講演会

日　時　2017年12月5日（火）　16:00～17:30（開場15:30～）

場　所　名古屋大学理学南館1階　坂田・平田ホール

講　師　伊丹健一郎氏　名古屋大学 トランスフォーマティブ生命分子研究所 拠点長
名古屋大学 大学院理学研究科物質理学専攻 教授
JST-ERATO 伊丹分子ナノカーボンプロジェクト 研究総括

演　題　「チカラある分子をつくる」

伊丹健一郎氏

夕食会

日　時　2017年12月5日（火）　18:00～20:00

場　所　グリーンサロン東山　レストラン花の木

＊詳細は、名古屋大学全学同窓会 Web ページ（http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/lecture2017_itami.html）、Facebook ページ（https://www.facebook.com/nualface）にてご確認ください。

事務局からのお知らせ　From the NUAL Office

●支援会費のお願い　Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費　Supporting Fee

支　援　会　員　Supporting member　：一口　5,000円
支援法人会員　Supporting institution：一口　50,000円

○支払い方法

郵便振替 Post Office Account　口座番号：00860－8－113043
自動引落 利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

「名古屋大学カード」の入会のご案内

～ 名古屋大学カードで繋がる大学支援 ～

全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化・大学支援の充実を目指し、
「名古屋大学カード」を発行しており、利用金額の一部が同窓会に還元されます。

◆名古屋大学カード ～ ゴールド ～

入会者は**15,000**名を超えています。

年会費永年無料！　家族会員様も1名様に限り無料。
ポイントがたまる！　家族会員様のご利用分もまとめて本会員様へ付与。

- 国内・海外旅行傷害保険付帯　最高3,000万円
- ショッピング保険　年間補償限度額 200万円
- 空港ラウンジサービス

入会方法について

① WEB からのご入会を希望の方
名古屋大学全学同窓会 HP からお申込みください
⇒ http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/

②入会申込書からのご入会をご希望の方
名古屋大学全学同窓会へ入会申込書をご請求ください
⇒ TEL／FAX：052-783-1920（受付：9:00～17:00）

●カード優待サービスの企業を募集しています。
●ニューズレターへの企業広告を募集しています。
いずれも詳細は全学同窓会事務局へお問い合わせください。

編集後記

和田代表幹事の新体制の下、初開催の同窓会サミット、マレーシア支部主催の益川先生の講演会など、多彩な誌面となりました。また、2020年の東京パラリンピック大会開催を目指してご尽力されている山脇様、イグノーベル賞受賞の中垣先生からも貴重なご寄稿をいただきました。今後も卒業生の皆様の変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

（全学同窓会広報委員会）

NUAL Newsletter　No.28　平成 29（2017）年 10 月発行
Nagoya University Alumni Association
NUAL 名古屋大学全学同窓会
〒464-8601 名古屋市千種区不老町　TEL/FAX 052-783-1920
E-mail nual-jimu@adm.nagoya-u.ac.jp
ホームページ　http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/
編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会